

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	プログラミング基礎 (Java)	
担当教員の実務経験	プログラマ・システムエンジニア	
対象学生	情報システム科1年、ビジネス専攻科1年、経営情報科	
授業時間数・単位数	44コマ ・ 3単位 (左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり)	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	Java言語を使用し、開発環境の構築や文法理解などの基礎から始め、実際にプログラムを作成しながらオブジェクト指向の概念の理解と基礎的なプログラミング技術を修得します。	
授業の到達目標	サーティファイ主催 Javaプログラミング能力認定試験3級の合格、オブジェクト指向の概念の理解と基礎的なJavaプログラミング技術の修得を目指します。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(40点未満)とし、サーティファイ主催 Javaプログラミング能力認定試験3級の合否、平常点によって評価します。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ オラクル認定資格教科書 Javaプログラマ Bronze SE ・ Javaプログラミング能力認定試験3級過去問題集 	
授業上の注意点		
	授業計画 (内容)	コマ数
	プログラミング環境構築・Java言語のプログラムの流れ	2
	データの宣言と使用	2
	演算子と分岐文	3
	繰り返し文と繰り返し制御文	3
	オブジェクト指向コンセプト	1
	クラス定義とオブジェクトの生成・使用	4
	継承	2
	ポリモフィズムとパッケージ	2
	問題演習 (問題集使用)	6
	模擬試験	12
	プログラミング実習	3
	総復習	3
	Javaプログラミング能力認定試験3級 本試験	1
	合計	44
	授業単位数	3

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

＜情報システム科＞

科目名	HTML・CSS基礎	
担当教員の実務経験	インターネット関連事業に従事	
対象学生	情報システム科1年、ビジネス専攻科1年、経営情報科3年	
授業時間数・単位数	12コマ	・ 1単位
授業方法	講 義 [] ・ 演 習 [] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	HTML・CSSを使用したWebページの作成とWebサーバによるインターネットへの公開を行います。	
授業の到達目標	HTMLとCSSの基本的な操作と体系的な知識の修得を目標とします。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(40点未満)とし、提出された課題及び平常点によって評価します。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	これからはじめるHTML&CSSの本（技術評論社）	
授業上の注意点	TeraPad、FFFTPを使用します。	
授業計画（内容）		コマ数
(1) ウェブページについて知ろう		2
(2) HTMLの基本を理解しよう		1
(3) ウェブページを作ろう		1
(4) サブページを作ろう		1
(5) CSSの基本を理解しよう		1
(6) CSSでレイアウトしよう		1
(7) テキストをデザインしよう		1
(8) 背景、影、枠線を付けよう		1
(9) モバイル・SNS対応して公開しよう		1
(10) ウェブサーバにアップロードして、インターネットで公開しよう		2
合計		12
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

＜情報システム科＞

科目名	就職実務	
担当教員の実務経験	ファイナンシャルプランナー、コンサルティング会社経営	
対象学生	総合ビジネス科、情報システム科、ビジネス専攻科、経営情報科	
授業時間数・単位数	15コマ	1単位
授業方法	講義 [○] ・ 演習 [] ・ 実習 [○]	
授業の概要	就職活動に向けてのモチベーションを高めていく	
授業の到達目標	講義、実習、模擬面接を通して今後の就職活動に生かしていくことができる	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。試験結果、出席率、提出物等を総合的に判断して評価する。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	配布プリント、まとめプリント等	
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
	社会人としてのモチベーションの保ち方（事例も交えて）	1
	コミュニケーションの取り方（コミュニケーションアップの4段階等）	1
	コミュニケーションを円滑にするために（ペーシングとその他のスキル等）	1
	社会人としての心構え	1
	自己分析と自己PRの仕方と対策、アンガーマネジメント診断	1
	ジョハリの窓～実践～	1
	会社組織を考える	1
	社会人基礎力	1
	対人不安の克服の仕方と緊張感を和らげる方法	1
	働き方を考える。	1
	上司とのコミュニケーションの取り方	1
	ブレインストーミングとコンセンサスゲーム～実践～	1
	面接に向けての配慮事項	1
	～模擬面接～	1
	～模擬面接～	1
	合計	15
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

＜情報システム科＞

科目名	アプリケーション実習Ⅰ	
対象学生	情報システム科1年、ビジネス専攻科1年、経営情報科	
担当教員の実務経験		
授業時間数・単位数	60コマ ・ 4単位（左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講 義 [] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	パソコンの基本的な知識と操作方法、表計算ソフト（MicrosoftOffice2016）の操作を学びます。	
授業の到達目標	タッチタイピングの習得、WindowsOSの機能の理解、ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトなどのオフィス系アプリケーションソフトの基本的な操作ができるようになることを目標とします。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(40点未満)とし、期末試験と平常点によって評価します。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	『30時間でマスターExcel2016』 実教出版	
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
	(1)タッチタイピングの演習	10
	(2)Windows10の基本機能と操作	1
	Windows10をはじめよう	
	デスクトップの使いこなし	
	ファイルやフォルダーの使い方	
	Windows10の設定変更	
	(3)Excel2016 スタートアップ	2
	(4)Excel2016 データを入力しよう	2
	(5)Excel2016 表を作成しよう	2
	(6)Excel2016 グラフを作成しよう	2
	(7)Excel2016 データを分析しよう	2
	(8)ワークシートやブックの作成と管理	4
	(9)セルやセル範囲のデータの管理	4
	(10)テーブルの作成	4
	(11)数式や関数を使用した演算の実行	4
	(12)グラフやオブジェクトの作成	4
	(13)模擬試験プログラム活用による模擬試験演習	20
	合計	60
	授業単位数	4

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	総合実践 I	
対象学生	情報システム科 1 年	
実務経験		
授業時間数・単位数	30コマ・2単位（左記を標準とし、学校及び個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	他の科目に分類されない下記のような授業を行います。 1. 学校行事の準備、実施などの総合的な学習 2. 全科目の学習状況を確認し、必要な科目の補習 3. 教育上、有益と認められる知識や技術に関する特別授業	
授業の到達目標	上記「授業の概要」のそれぞれの内容について下記の目標を設けます。 1. 協調性やコミュニケーション力などの育成、及び充実した学生生活を送ること 2. スケジュール管理能力の育成と各科目の遅延回復や弱点補強 3. 特別授業として実施する意義と授業内容の理解	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(40点未満)とし、平常点によって評価します。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書		
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
	(1)球技大会	4
	(2)学園祭	4
	(3)その他	22
	合計	30
	授業単位数	2

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	ITの職業と情報倫理	
対象学生	経営情報科、情報システム科、医療福祉ビジネス科、総合ビジネス科、ビジネス専攻科、ペットビジネス科	
担当教員の実務経験		
授業時間数・単位数	10 コマ	1 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	専門学校入学直後の導入科目として、これからの学習への動機付けと、安全のための情報モラル教育を行う。	
授業の到達目標	情報化社会において、被害者や加害者にならないための知識を学び、情報モラルを身につけ、情報機器を有効に活用できるようになること。	
成績評価方法と基準	出席状況及び科目試験の成績により評価する。A:80～ B:60～79 C:40～59 D:40未満	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	ITの職業と情報倫理（SCC：学習ノート）	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
(1) ITの発展と社会		1
(2) インターネットの基礎知識		1
(3) IoTとAI		1
(4) ITの職業と資格		1
(5) IT社会のトラブル		1
ITを使った詐欺、情報漏洩、依存症		
(6) 情報セキュリティ		1
個人情報の種類と法律、情報を守る技術		
(7) コンピュータウイルス		1
マルウェアの種類と被害、対策方法		
(8) 情報の捉え方		1
フェイクニュースや情報操作など糸のある発信の見分け方		
(9) 情報発信のルール		1
悪ふざけの投稿や誹謗中傷の代償、名誉棄損などの法律		
(10) 著作権		1
知的財産権の体系、守るべきルール		
(1) ITの発展と社会		1
(2) インターネットの基礎知識		1
	合計	10
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	ビジネス概論	
対象学生	情報システム科1年、総合ビジネス科1年、経営情報科3年、ビジネス専攻科1年	
担当教員の実務経験		
授業時間数・単位数	13コマ ・ 1単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 []	
授業の概要	経済・金融・企業活動と労働者の権利に関する基礎を学び、これらに関する時事問題に関心をもって接することができるようにする。難解で興味を失いがちな分野であるので、できるだけ時事問題を題材に、その背景を研ぎほぐすことを通じて、ビジネスの基礎を学べるようにする。	
授業の到達目標	経済ニュースに関心を持つことができる。株式会社のしくみを説明でき、簡単な財務諸表が読める。会社と従業員の契約関係を説明でき、会社が負う法的義務を説明できる。マーケティングを説明できる。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(40点未満)とし、最終回に実施する試験と平常点によって評価します。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	ビジネス概論(SCC:学習ノート)	
授業上の注意点		
	授業計画 (内容)	コマ数
	(1)会社とは	1
	(2)株式会社の設立	1
	(3)株式会社の組織	1
	(4)株式のしくみ	1
	(5)株式会社の財務会計	1
	(6)経営分析	1
	(7)損益分岐点売上、株式会社の税務	1
	(8)源泉徴収制度、会社の人事労務	1
	(9)経営戦略	1
	(10)マーケティング	1
	(11)景気の変動と為替相場	1
	(12)会社の法的責任	1
	(13)会社の倒産と会社更生	1
	合計	13
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	ビジネスマナーと文書技法	
対象学生	情報システム科1年、総合ビジネス科1年、経営情報科3年、ビジネス専攻科1年	
担当教員の実務経験		
授業時間数・単位数	13コマ・1単位	
授業方法	講義 [○] ・ 演習 [] ・ 実習 [○]	
授業の概要	「常識ある社会人」「常識ある職業人」となるための知識を身に付け、次の項目について実践できるようになることを目標とします。(1) 社会や職場のルール理解と適用(2) 社会人としての最低限のビジネスマナーの習得(3) 基本的な電話対応と来客対応マナーの習得	
授業の到達目標	「常識ある社会人」「常識ある職業人」となるための知識と実践力の習得を目標とします。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(40点未満)とし、講義の最終回に実施する試験と平常点によって評価します。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	表現技法 ビジネスマナーと文章技法 第4版 (S C C)	
授業上の注意点		
授業計画 (内容)		コマ数
コミュニケーション力を高めるために		1
お辞儀、敬語の基礎		1
敬語の実践		1
職場のマナー		1
執務上のマナー		1
電話の受け方		1
電話のかけ方		1
電話対応の応用、名刺交換		1
来客対応、客先訪問		1
席次		1
ビジネスシーンの「話す」と「書く」		1
ビジネスメールの基礎知識		1
身だしなみ		1
合計		13
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	実践ビジネス文書	
対象学生	情報システム科1年、総合ビジネス科1年、経営情報科3年、ビジネス専攻科1年	
担当教員の実務経験		
授業時間数・単位数	13コマ・1単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	社会で通用する、一般的な書式に沿ったビジネスメール、ビジネス文書の作成について学びます。	
授業の到達目標	社会で通用するビジネスメール、ビジネス文書について学び、一般的な書式に沿って適切なビジネスメール、ビジネス文書を作成できるようになることを目標とします。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(40点未満)とし、提出課題と平常点によって評価します。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	表現技法 ビジネスマナーと文章技法 第4版 (SCC)	
授業上の注意点		
	授業計画 (内容)	コマ数
	電子メールとは ～LINEじゃないよ！ メールだよ！	1
	ビジネスメールの出し方 ～ちゃんと出したのに...	1
	ビジネスメールの書き方 ～ルールとかマナーとか	1
	ビジネス社内メールの作成演習	1
	ビジネス社外メールの作成演習	1
	ビジネス社内文書の書き方 ～社内宛でもルールとマナー	1
	ビジネス社内文書の作成演習(1)	1
	ビジネス社内文書の作成演習(2)	1
	ビジネス社外文書の注意点 ～え？ これって非常識？	1
	ビジネス社外文書の表現 ～こんな日本語、知ってる？	1
	ビジネス社外文書の書き方 ～もちろん必要！ ルールとマナー	1
	ビジネス社外文書の作成演習(1)	1
	ビジネス社外文書の作成演習(2)	1
	合計	13
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	就職対策 I	
対象学生	情報システム科1年、ビジネス専攻科1年、経営情報科3年	
担当教員の実務経験		
授業時間数・単位数	75コマ・5単位（左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	自己分析、職種・業種・企業研究、企業選択、受験準備、会社訪問、採用試験など、就職活動における一連の流れに沿った知識やマナーを修得し、受講者が各場面において活かすことができるよう、就職活動の準備を行います。	
授業の到達目標	自己分析、職種・業種・企業研究、企業選択、受験準備、会社訪問、採用試験などの就職活動の各場面において必要となる知識やマナーを修得し、活かすことができるようになることを目標とします。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(40点未満)とし、講義中・期末に実施する試験、平常点によって評価します。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	・就職対策学習ノート ・就職試験サポートドリル、SPI対策問題集（実務教育出版）ほか	
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
	・就職対策(PINE-NET)	15
	(1)学生から社会人となる心構え、自分自身の就職環境	
	(2)企業選択時、面接時に活かすための自己分析の意味を知る	
	(3)企業選択時の参考となる業界動向を把握する	
	(4)企業選択、業種選択時の情報入手の方法とその活用方法を知る	
	(5)採用試験の受験準備として、事務手続き上の必要事項を知る	
	(6)採用試験に向けての提出書類の準備と注意事項を知る	
	(7)履歴書類の書き方の一般的な注意事項、志望動機、自己PRについて知識を得る	
	(8)会社訪問、会社説明会参加時の一般的な注意事項について知る	
	(9)就職活動における服装や身だしなみ、その他のマナーについて知る	
	(10)面接試験対策としての挨拶、受け応え、所作について知る	
	(11)面接試験時の志望動機、自己PRなど定番質問に対する回答を考える	
	(12)筆記試験対策としての、時事問題のポイントを知る	
	(13)筆記試験対策としての、論作文作成練習を行う	
	(14)就職先内定後について、知識を得る	
	・就職筆記対策	15
	・就職指導（履歴書作成・添削、面接練習など）	15
	・マナー講座、就職活動に関するセミナーなど	30
	合計	75
	授業単位数	5

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	基礎理論（情報処理概論）	
対象学生	情報システム科1年、経営情報科1年、ビジネス専攻科1年	
担当教員の実務経験		
授業時間数・単位数	15コマ ・ 1単位（左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 []	
授業の概要	基本情報技術者試験に向けた学習をするにあたり、必要となる情報技術に関する基礎的な理論を学びます。	
授業の到達目標	基本情報技術者試験（午前免除試験）の合格を目標とします。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(40点未満)とし、基本情報技術者試験（午前免除試験）の可否と、平常点によって評価します。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	コンピュータ概論、システム開発技術、マネジメントと情報化（ウイネット）	
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
	(1)離散数学（基数、集合、論理演算など）	2
	(2)応用数学（確率・統計、数値解析、グラフ理論など）	2
	(3)情報に関する理論（符号理論、オートマトン、形式言語、プログラミング言語論など）	2
	(4)通信に関する理論（伝送理論、多重化方式、誤り検出・訂正など）	2
	(5)計測・制御に関する理論	2
	(6)データ構造	1
	(7)アルゴリズム	1
	(8)プログラミング	1
	(9)プログラム言語（既存プログラミング言語の特徴など）	1
	(10)その他の言語（マークアップ言語やデータ記述言語の特徴など）	1
	合計	15
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	コンピュータシステム（情報処理概論）	
対象学生	情報システム科1年、経営情報科1年、ビジネス専攻科1年	
担当教員の実務経験		
授業時間数・単位数	15コマ ・ 1単位（左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 []	
授業の概要	基本情報技術者試験合格ために必要となる知識のうち、ハードウェア、ソフトウェア、情報処理システムについて学びます。	
授業の到達目標	基本情報技術者試験（午前免除試験）の合格を目標とします。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(40点未満)とし、基本情報技術者試験（午前免除試験）の合否と、平常点によって評価します。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	コンピュータ概論、システム開発技術、マネジメントと情報化（ウイネット）	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
(1)プロセッサ		1
(2)メモリ		1
(3)バス		1
(4)入出力デバイス		1
(5)入出力装置		1
(6)システムの構成		1
(7)システムの評価指標		1
(8)オペレーティングシステム		1
(9)ミドルウェア		1
(10)ファイルシステム		1
(11)開発ツール		1
(12)オープンソースソフトウェア		1
(13)ハードウェア		1
(14)ヒューマンインタフェース		1
(15)マルチメディア		1
	合計	15
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	ネットワーク技術（情報処理概論）	
対象学生	情報システム科1年、経営情報科1年、ビジネス専攻科1年	
担当教員の実務経験		
授業時間数・単位数	15コマ ・ 1単位（左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講義 [O] ・ 演習 [] ・ 実習 []	
授業の概要	基本情報技術者試験合格ために必要となる知識のうち、ネットワーク技術について学びます。	
授業の到達目標	基本情報技術者試験（午前免除試験）の合格を目標とします。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(40点未満)とし、基本情報技術者試験（午前免除試験）の合否と、平常点によって評価します。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	コンピュータ概論、システム開発技術、マネジメントと情報化（ウイネット）	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
(1)ネットワーク方式		3
(2)データ通信と制御（伝送方式と回線、LAN、OSI基本参照モデルなど）		3
(3)通信プロトコル（HTTP、TCP/IP、IPv4、Ipv6など）		3
(4)ネットワーク管理（ネットワーク仮想化、障害管理、トラフィック監視など）		3
(5)ネットワーク応用（インターネット、イントラネット、エクストラネット、モバイル通信など）		3
合計		15
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	データベース技術（情報処理概論）	
対象学生	情報システム科1年、経営情報科1年、ビジネス専攻科1年	
担当教員の実務経験		
授業時間数・単位数	15コマ ・ 1単位（左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講義 [○] ・ 演習 [] ・ 実習 [○]	
授業の概要	基本情報技術者試験合格ために必要となる知識のうち、データベースについて学びます。	
授業の到達目標	基本情報技術者試験（午前免除試験）の合格を目標とします。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(40点未満)とし、基本情報技術者試験（午前免除試験）の合否と、平常点によって評価します。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	コンピュータ概論、システム開発技術、マネジメントと情報化（ウイネット）	
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
	(1)データベース方式（種類と特長、モデル、関係データベース、DBMS）	1
	(2)データベース設計（データ分析・設計、正規化）	1
	(3)データ操作（挿入、更新、集合演算、関係演算、DDL・DML）	1
	(4)トランザクション処理（排他制御、障害回復、トランザクション管理、データ制御）	1
	(5)データベース応用	1
	(6)SQL実習（関係データベースの構築、定義と操作）	10
	合計	15
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	セキュリティ技術（情報処理概論）	
対象学生	情報システム科1年、経営情報科1年、ビジネス専攻科1年	
担当教員の実務経験		
授業時間数・単位数	15コマ ・ 1単位（左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講義 [○] ・ 演習 [] ・ 実習 []	
授業の概要	基本情報技術者試験合格ために必要となる知識のうち、セキュリティについて学びます。	
授業の到達目標	基本情報技術者試験（午前免除試験）の合格を目標とします。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(40点未満)とし、基本情報技術者試験（午前免除試験）の合否と、平常点によって評価します。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	コンピュータ概論、システム開発技術、マネジメントと情報化（ウイネット）	
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
	(1) 情報セキュリティ（マルウェア・不正プログラム、暗号技術、認証技術、利用者認証など）	3
	(2) 情報セキュリティ管理（ISMS、情報セキュリティリスクアセスメント及びリスク対応など）	3
	(3) セキュリティ技術評価（ITセキュリティ評価及び認証制度など）	3
	(4) 情報セキュリティ対策	3
	(5) セキュリティ実装技術（セキュアプロトコル、認証プロトコル、セキュアプログラミングなど）	3
	合計	15
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	システム・ソフトウェア開発技術（情報処理概論）	
対象学生	情報システム科1年、経営情報科1年、ビジネス専攻科1年	
担当教員の実務経験		
授業時間数・単位数	15コマ ・ 1単位（左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講義 [○] ・ 演習 [] ・ 実習 []	
授業の概要	基本情報技術者試験合格ために必要となる知識のうち、システム・ソフトウェア開発技術について学びます。	
授業の到達目標	基本情報技術者試験（午前免除試験）の合格を目標とします。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(40点未満)とし、基本情報技術者試験（午前免除試験）の合否と、平常点によって評価します。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	コンピュータ概論、システム開発技術、マネジメントと情報化（ウイネット）	
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
	(1)システム要件定義	1
	(2)システム方式設計	1
	(3)ソフトウェア要件定義	1
	(4)ソフトウェア方式設計・ソフトウェア詳細設計	1
	(5)ソフトウェア構築	1
	(6)ソフトウェア結合・ソフトウェア適格性確認テスト	1
	(7)システム結合・システム適格性確認テスト	1
	(8)システム導入	1
	(9)システム受け入れ支援	1
	(10)システムの保守・廃棄	1
	(11)開発プロセス・手法	1
	(12)知的財産適用管理	2
	(13)開発環境管理	1
	(14)構成管理・変更管理	1
	合計	15
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	プロジェクトマネジメント・サービスマネジメント（情報処理概論）	
対象学生	情報システム科1年、経営情報科1年、ビジネス専攻科1年	
担当教員の実務経験		
授業時間数・単位数	15コマ ・ 1単位（左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講 義 [O] ・ 演 習 [] ・ 実 習 []	
授業の概要	基本情報技術者試験合格ために必要となる知識のうち、プロジェクトマネジメント・サービスマネジメントについて学びます。	
授業の到達目標	基本情報技術者試験（午前免除試験）の合格を目標とします。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(40点未満)とし、基本情報技術者試験（午前免除試験）の合否と、平常点によって評価します。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	コンピュータ概論、システム開発技術、マネジメントと情報化（ウイネット）	
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
	(1)プロジェクトマネジメント	1
	(2)プロジェクトの統合	1
	(3)プロジェクトのステークホルダ	1
	(4)プロジェクトの範囲	1
	(5)プロジェクトの資源	1
	(6)プロジェクトの時間(PERT、CPM、EVMなど)	1
	(7)プロジェクトのコスト(FP法など)	1
	(8)プロジェクトのリスク、プロジェクトの品質	1
	(9)プロジェクトの調達プロジェクトのコミュニケーション	1
	(10)サービスマネジメント	1
	(11)サービスの設計・移行	1
	(12)サービスマネジメントプロセス	1
	(13)サービスの運用、ファシリティマネジメント	1
	(14)システム監査	1
	(15)内部統制	1
	合計	15
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	システム戦略・経営戦略・企業と法務（情報処理概論）	
対象学生	情報システム科1年、経営情報科1年、ビジネス専攻科1年	
担当教員の実務経験		
授業時間数・単位数	15コマ ・ 1単位（左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講義 [O] ・ 演習 [] ・ 実習 []	
授業の概要	基本情報技術者試験合格ために必要となる知識のうち、システム戦略・経営戦略・企業と法務について学びます。	
授業の到達目標	基本情報技術者試験（午前免除試験）の合格を目標とします。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(40点未満)とし、基本情報技術者試験（午前免除試験）の合否と、平常点によって評価します。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	コンピュータ概論、システム開発技術、マネジメントと情報化（ウイネット）	
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
	(1)情報システム戦略	1
	(2)業務プロセス	1
	(3)ソリューションビジネス	1
	(4)システム化企画	1
	(5)経営戦略手法	1
	(6)マーケティング、ビジネス戦略と目標・評価	1
	(7)経営管理システム	1
	(8)技術戦略マネジメント、ビジネスインダストリ	1
	(9)経営・組織論	1
	(10)OR・IE	1
	(11)会計・財務	1
	(12)知的財産権	1
	(13)セキュリティ関連法規	1
	(14)労働関連・取引関連法規	1
	(15)その他の法律・ガイドライン・技術者倫理、標準化関連	1
	合計	15
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	アルゴリズム	
対象学生	情報システム科1年、経営情報科1年、ビジネス専攻科1年	
担当教員の実務経験		
授業時間数・単位数	30コマ ・ 2単位（左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	プログラミングの基本となるアルゴリズムとデータ構造について、基礎から応用までの学習を行います。	
授業の到達目標	流れ図と擬似言語で表現された様々なアルゴリズムを理解し、かつ構築できる能力を修得することを目標とします。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(40点未満)とし、期末試験と、平常点によって評価します。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	基本情報技術者試験対策テキストⅣ[アルゴリズム編]（TAC）	
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
	(1)アルゴリズムの基礎 -流れ図と擬似言語、変数と配列、順次・選択・繰り返し	4
	(2)探索アルゴリズム	4
	(3)基本的な整列アルゴリズム(選択法、隣接交換法、挿入法)	4
	(4)文字列照合	1
	(5)文字列置換	1
	(6)文字列圧縮(ランレングス法)	1
	(7)データ圧縮法(ハフマン法)	1
	(8)データ構造(リスト、キュー、スタック、単純な木構造)	2
	(9)応用的な整列アルゴリズム(クイックソート、シェルソート、マージソート)	2
	(10)文字列探索(ボイヤ・ムーア法)	1
	(11)データ構造(ハッシュ、複雑な木構造)	2
	(12)グラフ、最短経路問題	2
	(13)ファイル処理	1
	(14)基本情報技術者試験過去問題演習	4
	合計	30
	授業単位数	2

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	基本情報対策講座	
対象学生	情報システム科1年、経営情報科1年、ビジネス専攻科1年	
担当教員の実務経験		
授業時間数・単位数	60コマ ・ 4単位（左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講義 [○] ・ 演習 [○] ・ 実習 []	
授業の概要	基本情報技術者試験（午後試験）の対策講義です。	
授業の到達目標	基本情報技術者試験（午後試験）の合格を目標とします。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(40点未満)とし、基本情報技術者試験（午前免除試験）の合否と、平常点によって評価します。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	基本情報技術者試験科目B問題集（TAC）他	
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
	(1) ネットワーク(ハフマン符号、パルス符号変調、IPアドレッシング、DNSなど)	4
	(2) 情報セキュリティ(暗号化技術、SSL/TLS、利用者認証など)	4
	(3) アルゴリズム(基本整列法、応用整列法、探索法、文字列の照合と置換など)	10
	(4) 問題演習	40
	(5) 模擬試験による試験対策演習	12
	合計	60
	授業単位数	4

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	情報処理検定試験対策	
対象学生	情報システム科1年、ビジネス専攻科1年、経営情報科1年	
担当教員の実務経験		
授業時間数・単位数	60コマ ・ 4単位（左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	過去問題などの問題演習を中心とした、J検（情報活用試験）、ITパスポート試験の対策講義です。	
授業の到達目標	J検（情報活用試験）、ITパスポート試験の合格を目標とします。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(40点未満)とし、J検、ITパスポート試験の合否と、平常点によって評価します。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	情報活用試験公式テキスト、ITワールド、IT戦略とマネジメント、過去問題など	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
(1)テキストの自主学习		10
(2)テキスト学習		
情報と情報の利用(データと情報、情報の表現方法、情報処理の手順)		2
パソコンを利用したシステム(パソコンシステム、関連機器とインタフェース、OS、ファイルシステム)		2
ネットワーク(ネットワークアーキテクチャ、ネットワークの形態、LAN、HTML)		2
情報社会への対応(情報ネットワーク社会とコンピュータ、ユビキタスネットワークとWeb)		2
情報セキュリティ(ネットワークセキュリティ、コンピュータセキュリティ、知的財産権)		2
(3)過去問題演習		40
合計		60
授業単位数		4

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	情報処理ステップアップ講座	
対象学生	情報システム科1年、経営情報科	
担当教員の実務経験		
授業時間数・単位数	60コマ ・ 4単位（左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	応用情報技術者試験の午前試験で問われる知識・技術を、講義動画によるテキスト学習・問題演習を通して身につけます。これにより、基本情報技術者レベルの知識整理と応用情報技術者試験へ向かう準備を行います。	
授業の到達目標	応用情報技術者の午前試験合格レベルの情報処理に関する知識・技術を身につけます。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(40点未満)とし、応用情報技術者の午前試験（過去問または模試）の結果と平常点によって評価します。	
準備学習・時間外学習	授業時間だけでは問題演習時間が不足するため、授業時間外でも問題演習を行う必要があります。	
使用教科書・教材・参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 応用情報技術者試験対策テキストⅠ・Ⅱ・Ⅲ、ニュースペックテキスト ・ 応用情報技術者試験午前問題集 	
授業上の注意点	基本情報技術者試験合格者及び同等の能力を有する者を受講対象者とします。	
	授業計画（内容）	コマ数
	授業オリエンテーション	1
	午前基本講義（全10分野）	20
	午前問題演習	25
	基本情報技術者試験過去問題等を利用した情報処理に関する知識・技術の復習	12
	評価テスト(応用情報技術者の午前過去問または模試)	2
	合計	60
	授業単位数	4

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	戦略MGマネジメントゲーム	
対象学生	経営情報科、情報システム科、医療福祉ビジネス科、総合ビジネス科、ビジネス専攻科	
授業時間数・単位数	15コマ・1 単位（左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	ボードゲームの戦略MGマネジメントゲームを使用し、模擬会社経営を行う。 参加者は製造業の会社の社長となり、市場において自己資本の増加額を競う。	
授業の到達目標	経営者視点で企業経営を考えられるようになること、簿記会計の知識を実践的に活用できる能力を修得することを目標とする。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(40点未満)とし、出席状況及び提出物によって評価する。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	戦略MGボード盤 一式	
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
	(1) 授業の説明、第0期ゲーム実施、決算書作成、戦略策定	4
	(2) 第1期ゲーム実施、決算書作成、財務分析、戦略策定	4
	(3) 第2期ゲーム実施、決算書作成、財務分析、戦略策定、	4
	(4) 第3期ゲーム実施、決算書作成、財務分析、表彰	3
	合計	15
	授業単位数	1